



特集1 選挙に行こう!



若年層をはじめ、投票率が低い現在、出前授業などのさまざまな啓発

市では明るい選挙推進協議会とともに、活動に取り組んでいます。



Part 1 小学生が体験！ 宮崎市長模擬選挙

今年度は、潮見小学校と赤江小学校で模擬投票を実施。6年生の皆さんが選挙の仕組みや投票方法などを学びました。ここでは、潮見小学校での様子を紹介합니다。



2020年 東京オリンピックの選手合宿地にします!

誰がいいかな…?

3 模擬投票
まず、宮崎公立大学の学生3人が立候補者として登壇し、演説を行いました。どの候補者も、子どもたちが興味を持ちそうな公約を力説し、時折交えられるユーモアに子どもたちからは笑い声も上がっていました。
そしていよいよ投票。投票は、投票用紙の交付や記載のほか、明るい選挙推進協議会の地域のメンバーが投票に立ち会うなど実際の選挙と同じ流れで進行。一部の児童は選挙スタッフにも加わるなど、全員が投票や投票事務を体験しました。



3 模擬投票



宮崎市明るい選挙推進協議会 会長 渡部紀南(わたなべ としみ)さん

みんなは今すぐに投票はできないけど、投票日にはお父さんやお母さんに「選挙行った?」と声掛けしてくれるとうれしいです。

明るい選挙推進協議会(明推協 めいすいきょう)とは、有権者が自覚を持って進んで投票に参加し、選挙が公正に行われ、私たちの意思が正しく政治に反映されるよう活動を行っている団体です。



1 出前授業について

始めに、宮崎市明るい選挙推進協議会会長の渡部紀南さんがあいさつ。「学級数や先生の人数、給食や備品などの予算など、皆さんの学校生活に関わりの深いことは、選挙で選んだ代表者が決めるんですよ」と、小学生と選挙との関わりを分かりやすく解説しました。子どもたちも、この日用意された投票箱や記載台、計数機が全て本物と聞き、興味津々の様子でした。



誰もが楽しめる大型レジャー施設を作ります!

錦織優樹 候補



投票は一人ずつ順番にね!



2 選挙クイズ

続いて、市選挙管理委員会が選挙の仕組みや投票方法を説明した後、選挙クイズがスタート。「投票率が30%を下回った選挙はどうなるか」というクイズでは、無効や再選挙と答える子どもたちが多数でしたが、正解は有効。投票率が低くても喜ばしいに関わる大切なことが決まってしまうという事実

実際に使用する、候補者氏名を提示した記載台。



「暮らしを良くしたい」という願いは人それぞれ。選挙とは、私たちの代わりに願いを実現してくれる代表者をしっかり選んで投票することです。



市選挙管理委員会事務局 主任主事 綾 哲一



新幹線の開通やテレビのチャンネル数増加を実現します!

長谷川輔 候補

選挙の結果、最も子ども目線の政策を掲げた長谷川輔さんが過半数に及ぶ票を獲得。見事当選!



4 結果発表

投票が終わると開票作業へ。ここでも児童が主役で、票をまとめて投票用紙計数機でカウント。初めての作業でしたが、市選挙管理委員会職員のサポートもあってスムーズに進行し、無事に選挙結果の発表が行われました。最後に市選挙管理委員会の仁田脇次長が「選挙で代表者を選ぶのは、社会の一員として大切な役割だということ覚えておいて、有権者になったら必ず投票に行ってください」とメッセージを送りました。

はいっ!はいっ! この問題分かった!!



せていました。「若い皆さんの願いを政治に反映させるためにも、投票することが大切だと覚えてくださいね(綾)

大人になってきっと役立ちます!

学校では学年の代表などを話し合いで決めるため、子どもたちには選挙自体がなじみの薄いものです。学生の候補者による演説もあり、とても現実的な体験ができたと思います。

1組担任 吉野 裕子先生
3組担任 畑野 浩一先生